

卷二

520

世界百珍  
人間之卷  
上卷



特41  
520

はしがき

此の本は、世界の珍を百種あつめたるもの  
一冊にして、人間と景色と動物と機械と  
に分ちたる人間の巻の上巻なり。下巻と景  
色と動物と機械との四冊（一冊廿珍）を以て  
全部完結するものなれば、百珍は五冊物と  
覺ありたし。寫真その儘を彫刻したる積な  
れど處々鮮明を欠きたるは木版の技の及ば  
ざる所と免じ給へかし。編者しるす

明治

45. 6. 6



## 目次

世界一の大男小男○西藏の面○西洋の精神寫真○  
奈翁に似たる役者○百億萬圓の顔○壽命の縮まる  
職業○世界最初の人像寫真○世界一の大紙鳶○自  
轉車の大曲藝○美人即白骨○西洋の砂書○珍食家  
○回々教團体の叩頭○駱駝と象の敬禮○世界最大  
の像○支那婦人の纏足○印度乞食○佛國の決闘○  
伊太利騎兵の馬術○手提輕便ボートの發明

「以上廿珍」全

# 世界 百珍 人間 の 卷 上卷



## 世界一の大男小男

日本の大男と聞けたる昔の大砲、今の待乳山も身の丈六尺二三寸と云へり、こゝに現はれ出でたる大男は身の丈七尺の餘あり、其の又ポケットに這入りたる小男は、身の丈一尺四寸なり

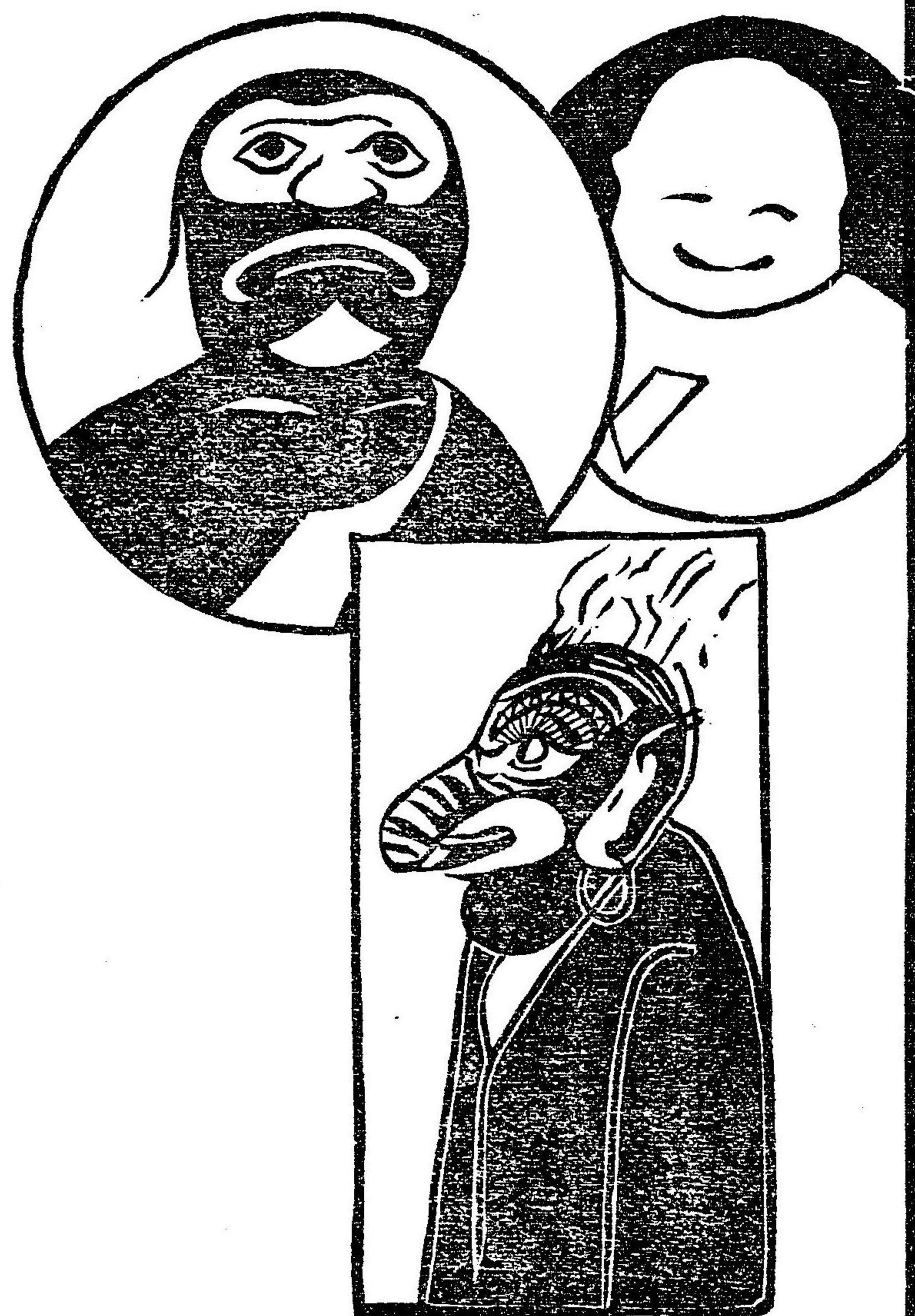
造化翁も時々ふざけた真似をして見るものと覺ゆ、大男と小男との釣合を見るべし





## 西藏の面

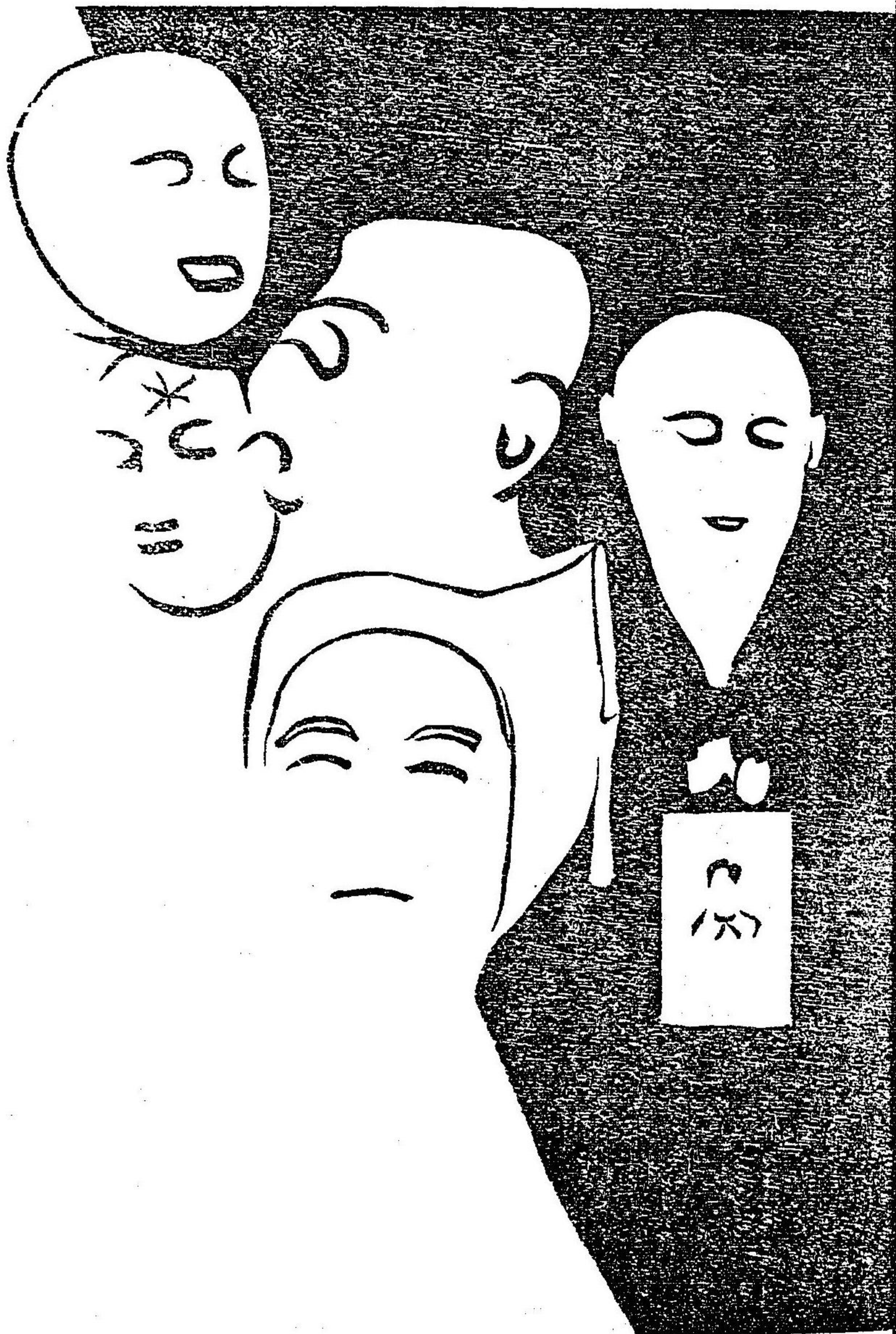
これは日本の外道の假面の先祖なり、西藏の正月にては、矢張鬼やらひの様なる惡魔拂ひを行ふ、其の時惡魔に成るもの、被る假面に様々あり、此の圖の上の方のは猿面魔にて其の隣の布袋然たるは喇嘛<sup>らま</sup>聖僧の標本なり  
耳の大なるは、世界中の信徒の祈禱を洩れな聞く爲めなりと、下の天狗は人喰の魔なり





### 西洋の精神寫眞

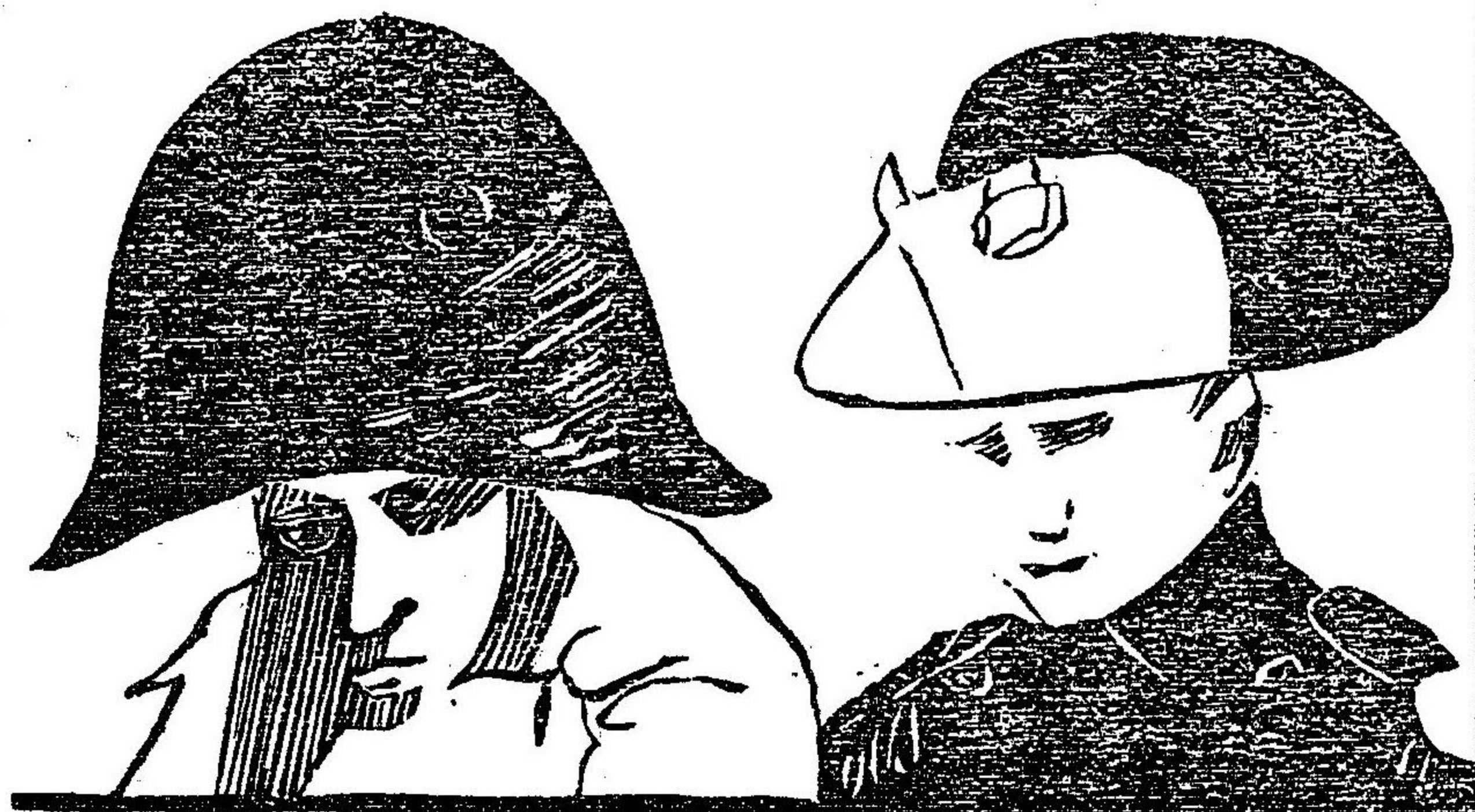
此の圖は米國のハンスマン博士が、全く未知の佛國人ドウフィンと云ふ婦人より送り來りし寫眞から撮れば圖の如き幻が乾板に現はれ、中に親戚にあらざる虞翁が一人混れり、要するにドウフィンの腦裡に印象されたる人間が海を渡り米國の試験室の乾板に現はれたるものなり日本の千里眼の乾板の如し





### 奈翁に似たる役者

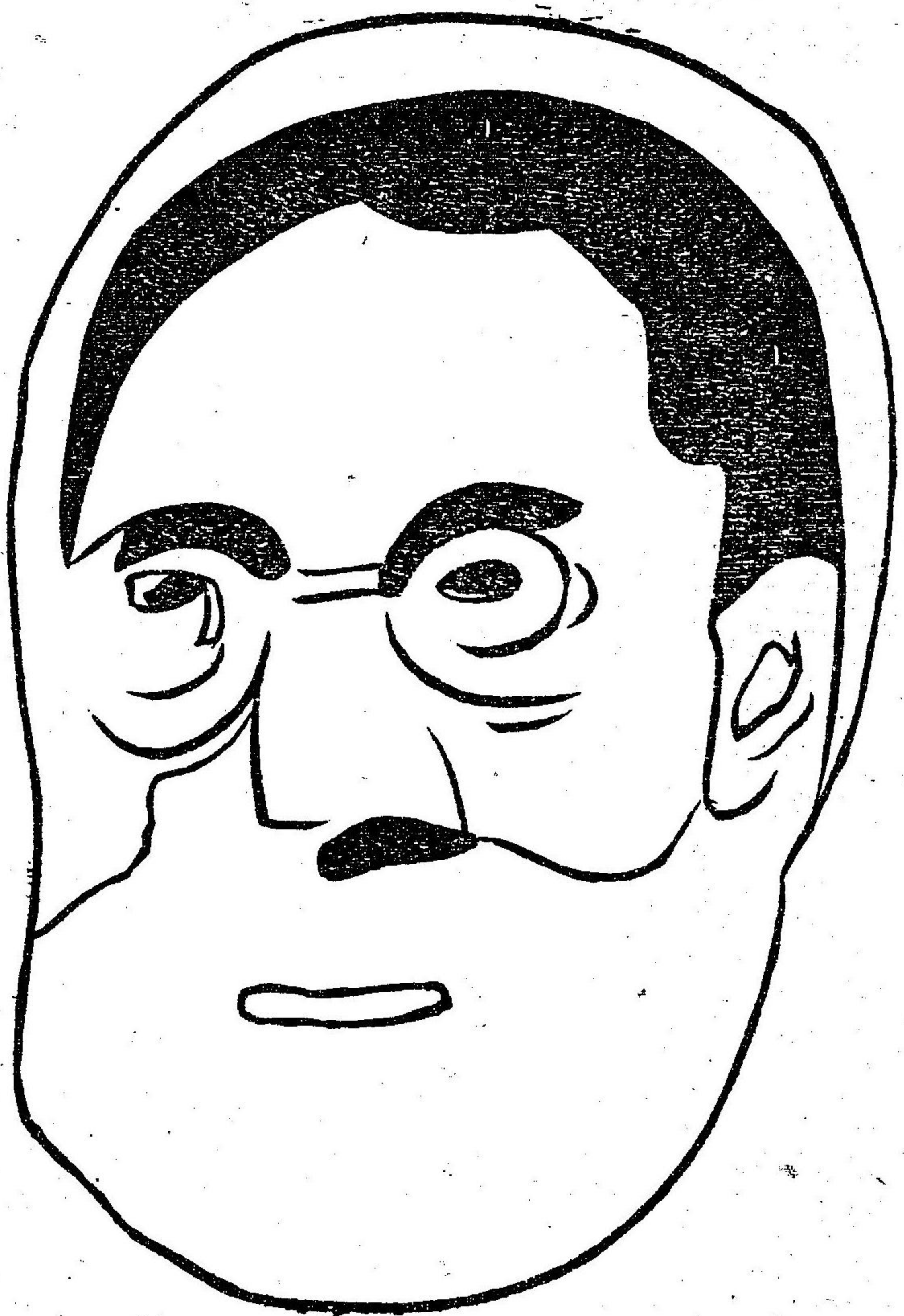
他人の空似とは、日本にて能く云ふ事なり、  
佛國にてナポレオンの芝居を演ずる時には、  
成るべくナポレオンに似た男を探して來てや  
らすと云へり、之れは其の最も能く似たる男  
の肖像を集めたるもの  
其の代り藝當に掛けては、何れも皆ボンクラ  
の藝揃へと云ふも心細き限なり





## 百億萬圓の顔

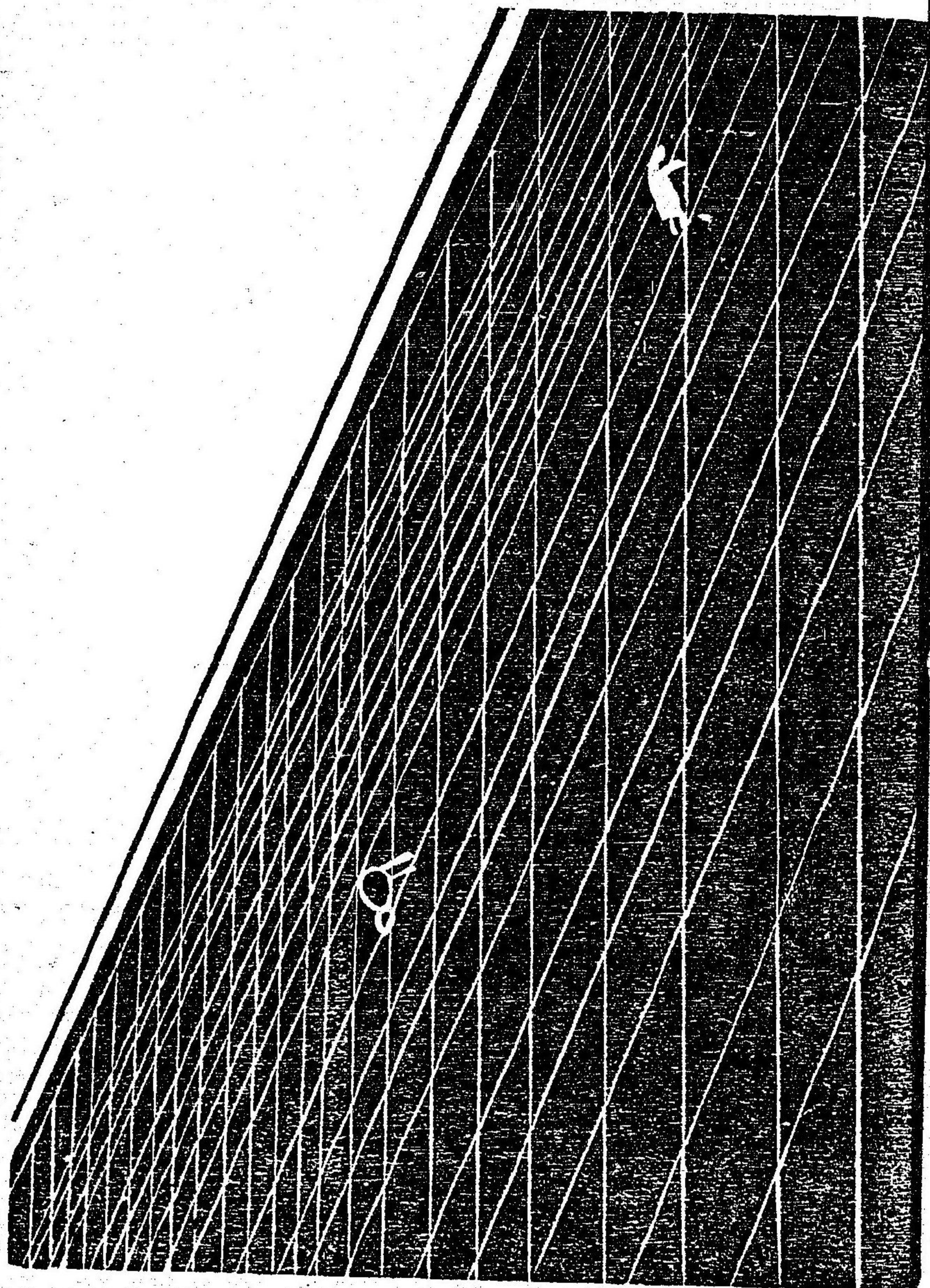
實を申すと、之れは少なく共一千萬圓位いは  
願にてシヤクリ出す資格のある世界の大金持  
即ち十萬億圓以上と聞ねたる、ロックフェラ  
を始めモルガンやロスチャイルドなど、數十  
人の面を重ね寫したる顔なり、何分か此の顔  
に似たる處なければ、一千万圓以上の金持に  
成れぬものを思ふべし





### 壽命の縮まる職業

金綱に蠅の止りたる形、これは北米紐育のハ  
ドン河に懸りたる、大釣橋の釣綱の塗替へ  
工事なり、地を去る數百尺の宙天に止りて、  
仕事を爲すは、見るものゝ心膽を寒せしむる  
ものと謂ふべし、如何に高きもの流行の紐育  
にてもこればかりは壽命の縮まる職業の行き  
止まりなりと稱せらるゝなり





### 世界最初の寫眞

今を去る七十餘年、佛國ダゲールが寫眞を工夫し、紐育大學のドレバー博士が巴里に行きダゲールより傳授を受けて大學に歸るや、巻煙草の箱にレンズを仕掛け、初め自分の娘の肖像を撮りけるが是れなり、先年紐育にて此のドレバー博士の百年祭が營まれ、七十年振りにて此の寫眞が現はれたりと云ふ





## 世界一の大紙鳶

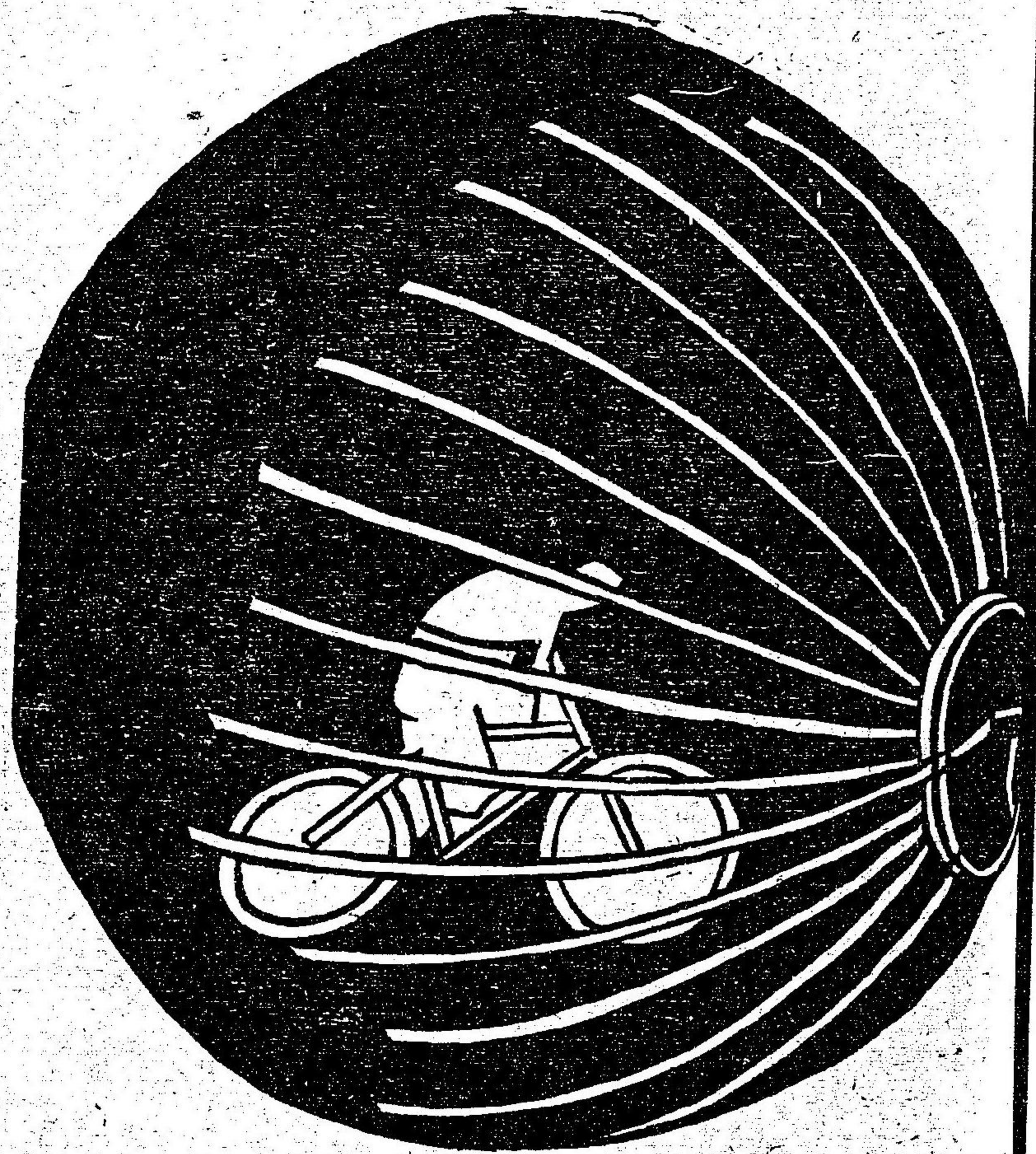
此所に示す紙鳶は、北米費府の紙鳶飛揚會に出したるものにて、高さ三十呎幅三十呎面積四百五十二立方呎、日本に例を見ざる大紙鳶なり、折り畳みして持ち運びの出来る製法は珍なり、夜灯をつけて揚げるも亦珍なり  
サテ風のはらみたる時は、どの位力を持や辨  
慶の五人や十人入るならむ





### 自轉車の曲藝

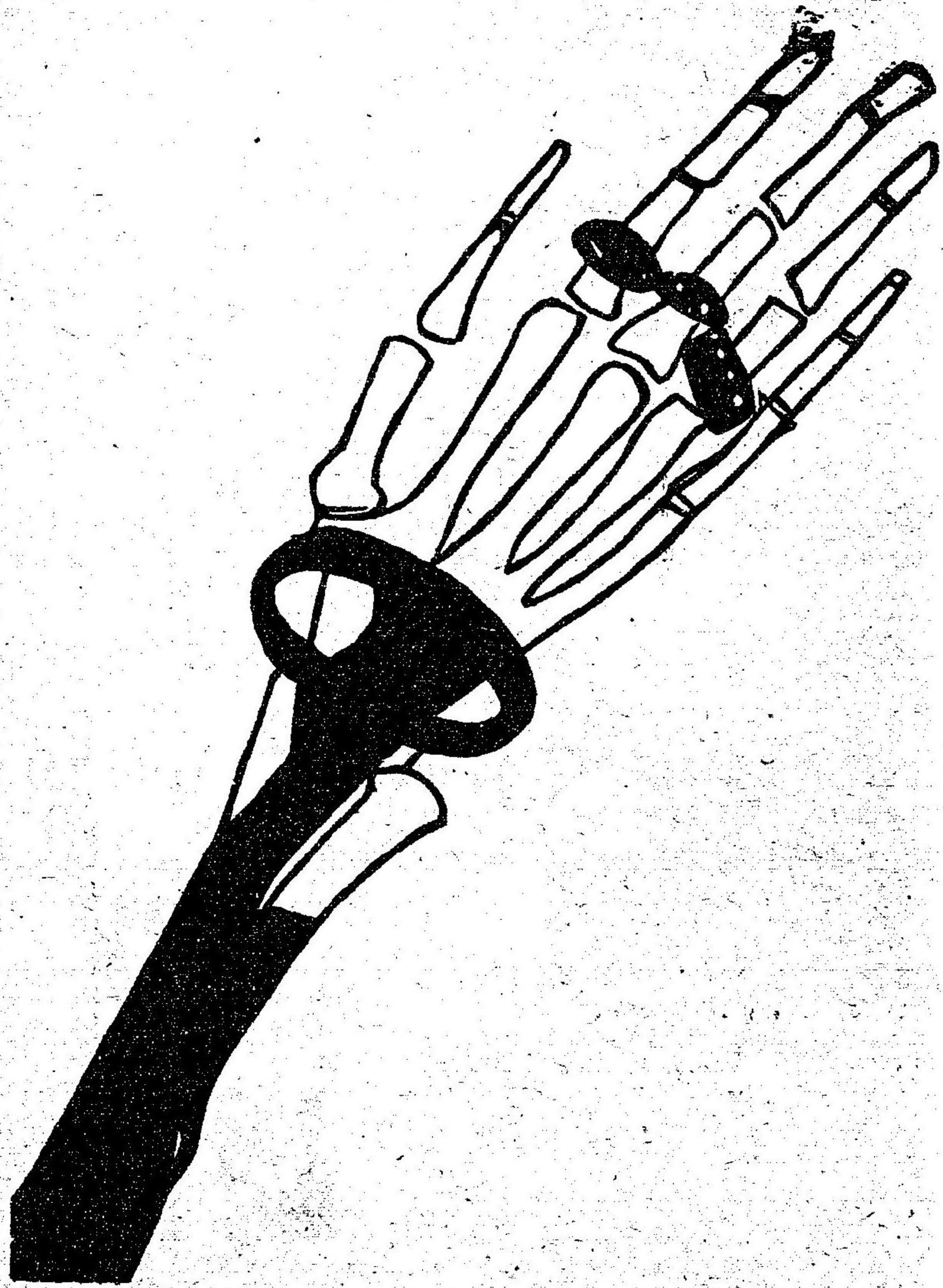
この度御覽に供しまするは、歐羅巴は獨逸に於て大喝采大好評を博しましたる自轉車の曲藝に御座ります。直徑二丈八尺の大籠の中心に上り、車を走らせませする、籠はグル／＼淀の川瀬の水車の形と御座います、やり損ひは幾重にも御容赦、首尾よく参りますれば御手拍子御喝采を願ひます





## 美人即白骨

申す迄もなくX光線なり、手袋はめたる美人の冬着の袖にかくしたるが現れたるもの指輪と腕輪の釦と手袋のコハゼが、明らかに見ゆ指輪のダイヤモンドは透明するも人差指の指輪の大なるダイヤモンドは、透明せず依りてにせものと分りたるが、飛んだ所にてぼろを出したるは笑止なり





## 西洋の砂替

バイブルに曰く、風一たび吹けば花も香も失せて所も分らぬと、是ればらの哀れを諷したるものなるが、それと同じ果敢<sup>は</sup>なさは沙の上の書なり、これは歐洲の海水浴場を廻り、沙上に大々の書を書きて浴客の慰に供し多少の金に有附くと云ふ砂かきなれど、大なる丈けが取柄にて、バラと一夜の運命を同うす



さか油



## 珍食家

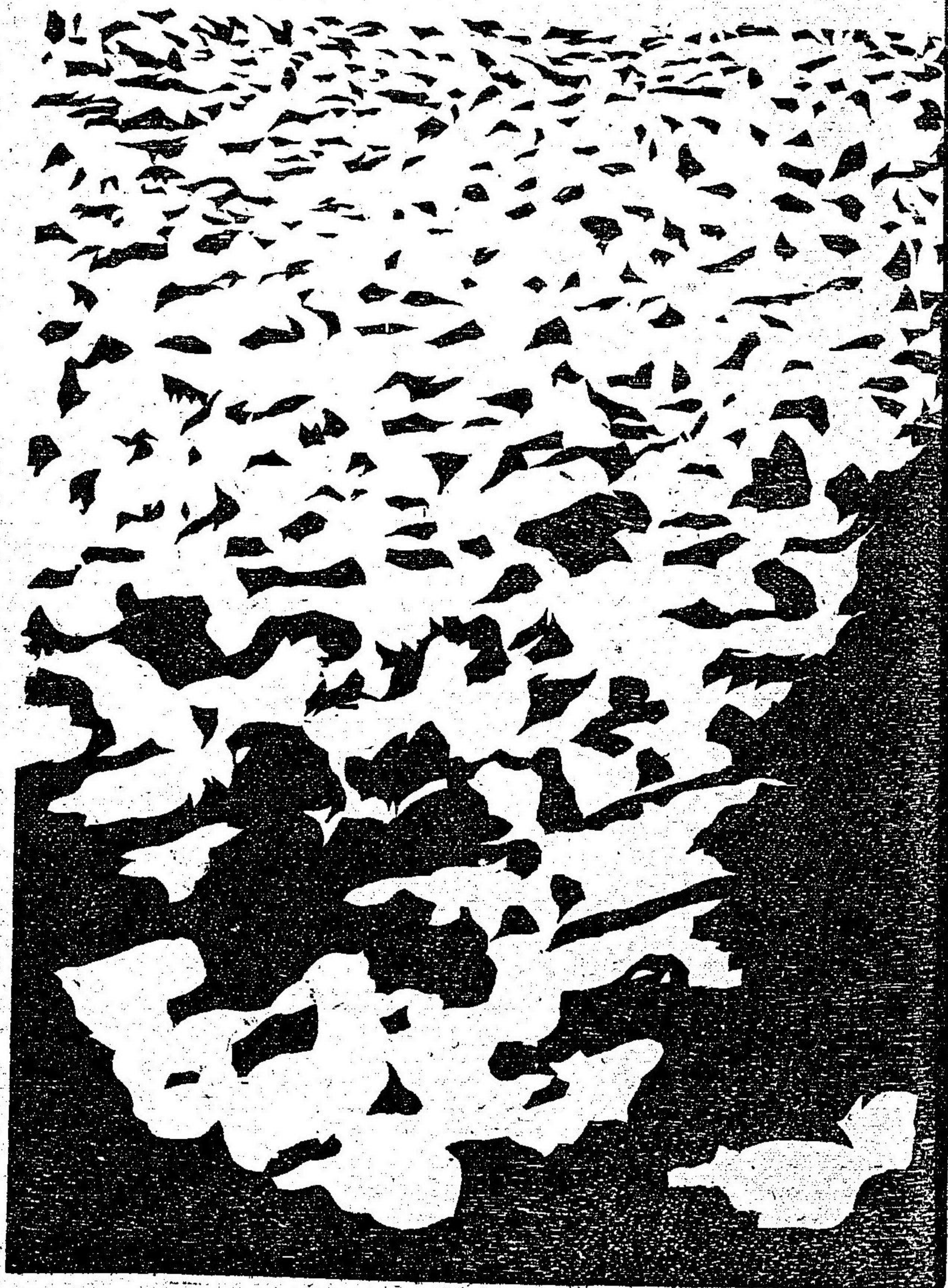
昔の人は蓼喰ふ蟲も好々なぞと、珍がつたものなれど、茲に北米ミシガンの五十男にて卅年程前より、硝子の片火薬の填めたる雷管や貨幣ナイフや釘などを喰ひけるが甘くして止まず、始終賞玩する中とう／＼胃を害し、醫者に手術を受けたるが、胃袋の中より斯くの如き御馳走が出でたるなり。





## 回々教徒団体の叩頭

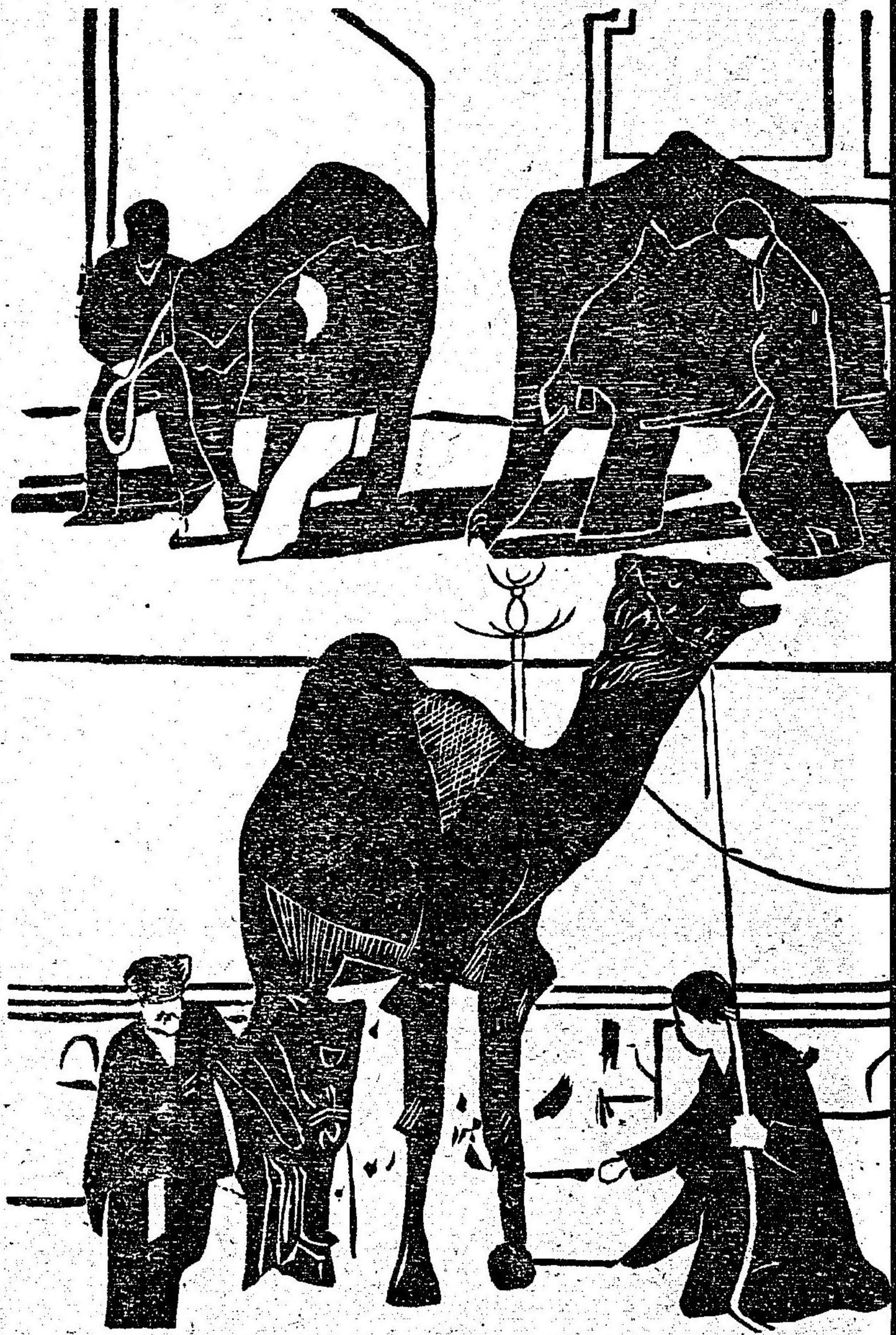
これは印度のデリー市の回々教の大本山、チ  
ヤマスデット寺の前の廣場に、回々教の團參  
無慮數十萬か低頭平身したる所の圖なり、版  
畫鮮明を欠ぐも原圖からして不鮮明なれば致  
方もなし、本圖は團體の十分の一位の光景と  
知るべし、團參も日本に比し業々しきは矢張  
西洋と云ふべきなり





### 駱駝と象の敬禮

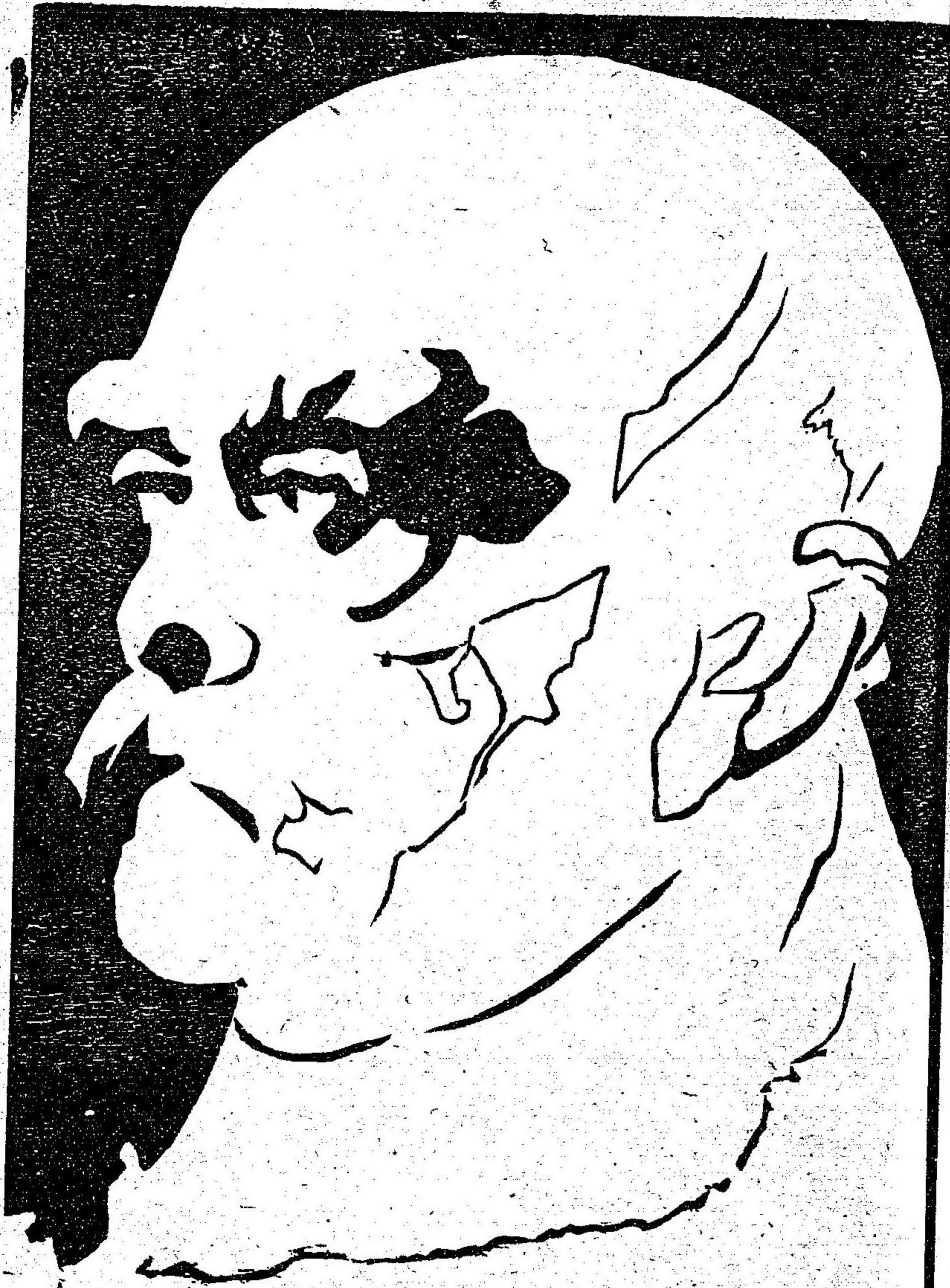
大英國の上下が擧り、お祭さわざをなしたる  
英皇の載冠式に際し、駱駝も人間並否國民並  
に天恩に浴する点同一なればとて、國民並の  
最敬禮を表さしめんと、飼主の面々はいろ  
く苦心を重ね、最敬禮の真似形を稽古さし  
て居る處の圖なり、象の真面目なる處、面白  
からずや





## 世界最大の像

これはピスマルクの像なり、首丈けが十二メートル二分の一(約四十尺)尤も未だ出来てな  
きも之れから、ライン河畔のビンゲンに拵へ  
る由なり、此の圖は其の首の模型にて、普通  
の人との大きさを比較して見れば、左の方に  
立つ二人の人に比べて如何に馬鹿氣て大なる  
かを想像すべし





### 支那婦人の纏足

支那婦人の纏足は、今更事新しく云ふ迄もなし此奇妙なる風俗も、重に漢人の間に行はれ之れが美人たるの一大要件とは恐縮の至りなり、歩む姿を可愛らしくする爲めとも云ひ腰を發達さす爲めとも云ひ或は其以外の爲めとも云ふ併しお爲めが何れにして悪しきは皆同じ、支那の奇習とす





## 印度乞食

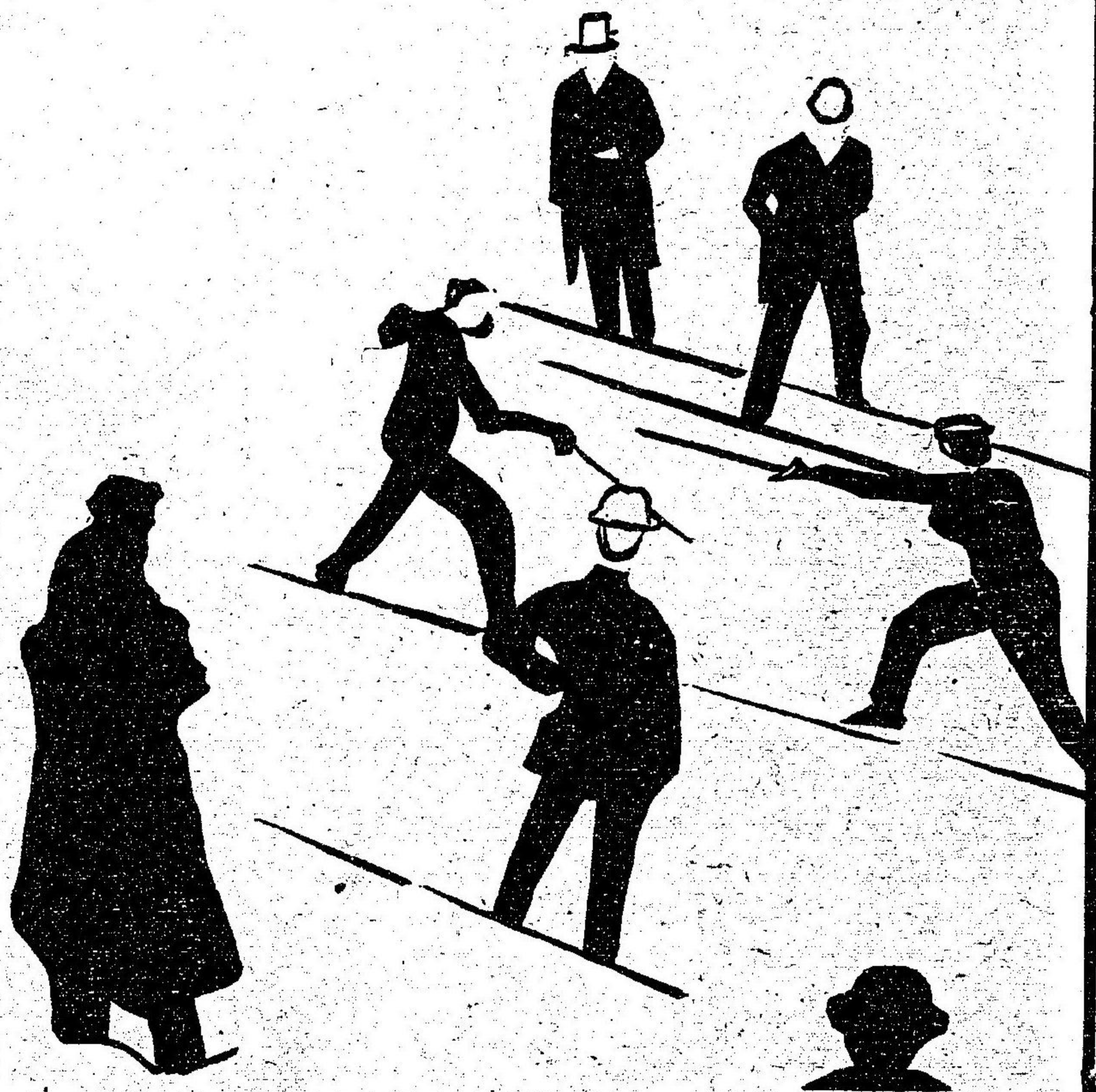
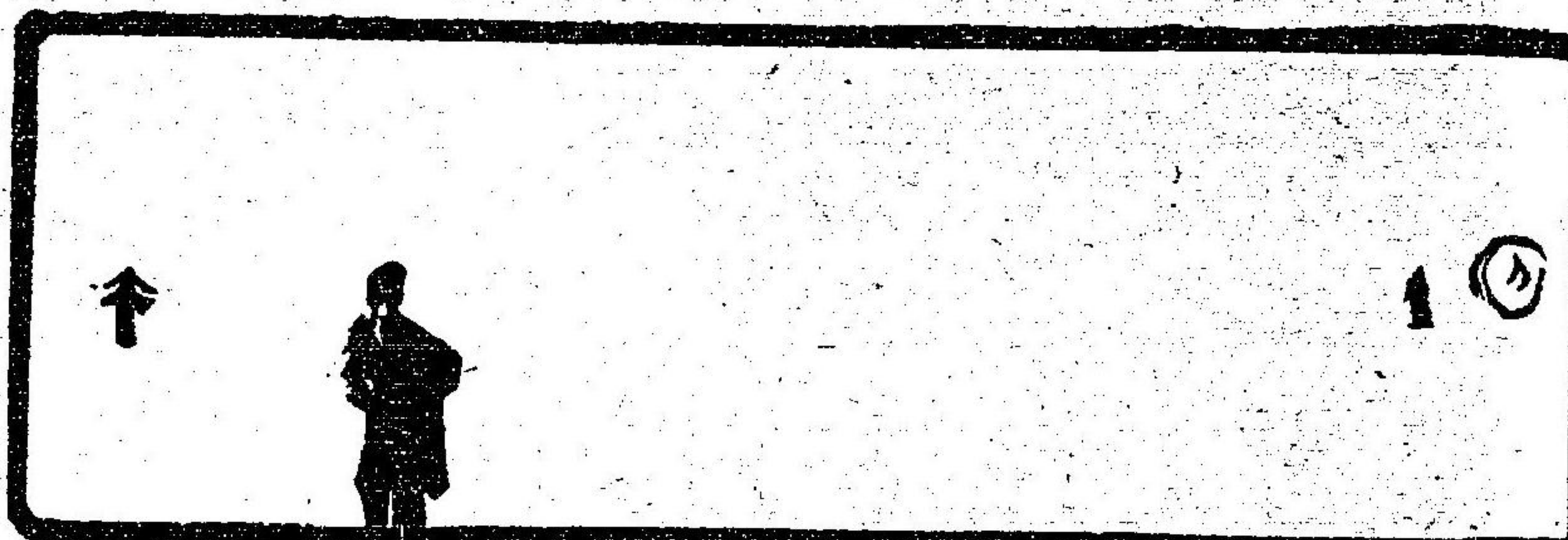
印度の國は、デルヒの南方に寺あり、此の寺には昔より靈池と稱する一つの池ありて有名なり、遊覧客が少し錢を出せば、望みに應じ高所より其の池に飛び込みて、見すと云ふ、恰も伊勢の宇治橋に於ける乞食と同じ、河原乞食と云へば、之れは敢て印度乞食と命名して然らずや





## 佛國の決闘

巴里の劇場監理人と一人は演藝雑誌の記者なり、獨逸人の脚本をコメディイ座にて演じたる時、記者が烈しく攻撃し、演藝を中止せしめたるが原因、初め短銃を四回宛發したるも相方無事、更に真劍に及び丁々發矢と戦ひ、監理人が重傷を負ひ、記者は意氣揚々として引揚げたり、上圖は短銃、下圖は真劍なり、





## 伊太利騎兵の馬術

伊國騎兵學校は乘馬術にては世界一の稱あり  
日本の將校中にも、入學のものある由なり  
此の圖は、同校教官の障害物飛越の馬技なり  
御馳走を列べたる卓上を、易々と飛び越ね行  
く様平地を行くが如し、騎手の姿勢見るべし  
日本兵の馬術の及ざる遠し





### 手提輕便ポーチ

巴里の或る發明家が、近頃造りたるもの普通の  
スーツケースより少し長い、それを擴げる  
と舟になり疊むとポーチになる材料は防水し  
たる極く輕き物にしてたるが一本あるのみ、  
ポーチハウスの必要もなく、何處にても提げ  
て行かれる丈けが便利なり、旅行用具として  
携帶するにも疊め行かるゝ丈け便利なり





明治四十五年五月廿七日印刷  
明治四十五年六月一日發行

編纂者 有文館出版部

京都市下京區富小路通錦上ル高宮町

發行者 高田幾之助

京都市上京區御幸町通二條上達摩町

印刷者 白木勉一

京都市上京區御幸町通夷川下

印刷所 平安舖印刷所

京都市富小路通錦小路上ル

發行所 高田有文館

不許復製

續刊 風景の卷 六月發行

緬甸の珍塔○支那の佛岩○釋迦の髮塚○濠洲の熱湯泉○摩洛哥  
哥ッエツ市街○阿弗利加の金剛石鑛○墨西哥土族の碑○十  
六世紀の建築○イヅの墓○羅馬時代の石の都○基督遭難の地  
○野さらしの墓○チャチローの海波○恐るべき砂の海嘯○阿  
里山の神木○ブシユマンの繪○七千呎の飛行器○同アルプス  
越○文明の夕からす○南洋の蟻の塔



續刊 機械の巻

七月發行

伸縮自在のマスト○自動車應用の梯子○消防墳水塔○飛行器  
二百七十三○砂彫刻○飛行器列車○珍無類の時計○氷上用の  
自轉車○携帶用の無線電話○乗手の無き潜航艇○十二人乗の  
飛行器○銃丸飛行中の寫眞○象車○飛行船攻撃の砲車○雪掻  
列車○飛行器退治の砲車○鐵道電話○飛行器軍用の嚆矢○轉  
覆せぬ小舟○客車消毒釜

續刊 動物の巻

八月發行

駱駝と象の敬禮○前世紀の大鱗○百萬年前の怪獸○恐ろしき  
毒頭○前世紀の巨獸○動物の保護色○蛙變じて達磨×成る○  
これは何其一○非凡の猪○海豚の水先案内○瀛車を覆したる  
巨象○獅子とゼブラ○稀有の眞珠○これは何其二○狎猫の墓  
○伊太利の韓退之○ロスチャイルドのゼブラ車○好い氣の獅  
子○人面鳥身の猿○軍用駱駝

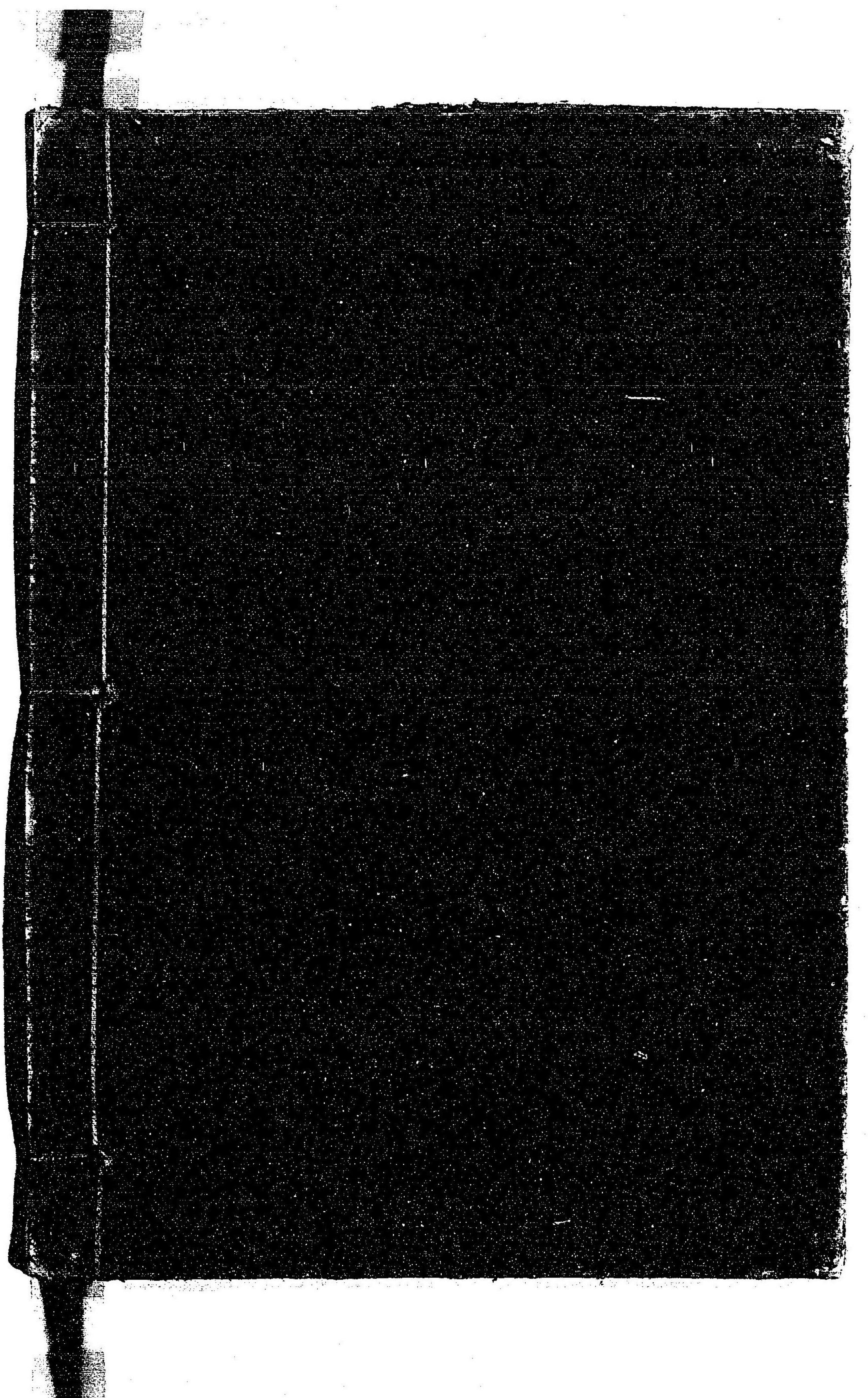


續刊 人間の巻 下巻

巴里新流行の女袴○韃靼女の北極旅行○指紋法の効用○ポ  
イスカウト○英國の船中水泳場○乃伊の行列○犬喰人種と犬  
市の女兵の弱点○回々教徒の苦行○四百萬圓の冠○英帝戴冠  
式の什寶○大學生の決戦○ピアノの曲彈○御釋迦の足の裏○  
ガンス河の御祓○瑞西の射撃演習○ウキクトリア河畔の眞夜  
中○ペスト退治の祈禱○獨逸の電車學校○米國の新築圖書館

256  
308







特41

520

102360-000-8

特41-520

世界百珍 人間之卷 上卷

高田有文館

M45

EAG-0220

